

㈱静岡茶市場 一番茶総評

令和元年5月31日

一番茶取扱実績（5月31日現在）

【荒茶・本茶のみ】

	数 量 (kg)	平均単価 (円)	昨年同日対比	
			数 量 (%)	平均単価 (%)
県 内	921,863.9	1,602	80	99
県 外	428,850.5	1,824	93	99
合 計	1,350,714.4	1,672	84	99

【荒茶・仕上・全茶種合算】

	数 量 (kg)	平均単価 (円)	昨年同日対比	
			数 量 (%)	平均単価 (%)
県 内	1,044,820.0	1,483	82	97
県 外	645,938.6	1,482	101	95
合 計	1,690,758.6	1,482	88	97

本年の県内産一番茶の生産は、暖冬の影響で例年より早くなるとの予想でしたが、3月24日と4月4、5日の冷え込みで芽伸びが抑えられ、平年並みのスタートとなりました。

県外産についても種子島が3月下旬、南薩地区が4月上旬と平年並みとなりました。

県内産は摘採前の冷え込みと少雨の影響で、数量にまとまりを欠く生産が続き、弊社初取引での取扱数量は前年の十分の一となる1,200kgとなりました。その後も寒の戻りなどで数量は伸びず、一日の取扱数量も6万キロを越えた日が1日だけとピークのない長期の生産となりました。

流通面では異例の長期連休（10連休）となったゴールデンウィーク前までに納入する新茶の注文が多かった様で、連休前までは品不足も手伝って昨年より高値を付ける物もあり、堅調に推移しましたが、連休に入った直後に大手が仕入れを抑えた為、生産のピークを迎えたが、中・西部地区早場所物が行き場を失い、単価は1,500円を大きく割り込み急落しました。「こんなに注文が来ないゴールデンウィークは経験がない」と話す茶商も多く、10連休は茶業界にはマイナスに作用した様です。その後も茶商の当用選択買いは続き、価格はあつという間に1,000円を割り込み、下値は600円台も見受けられました。

東部地区は4月の冷え込みの影響で5月に入ってから生産が本格化しました。価格は900円を割った頃からドリンク原料需要が入り下げ止まりをみせ、800円前後で落ち着きました。

中山間地は4月に入ってから冷え込みの影響で、連休に入ってから生産が本格化しましたが、収量は伸びず減産となりました。西部の深蒸し系に比べ普通蒸しの茶の繰り越し在庫は少なかったようで需給バランスが取れ、単価は昨年をやや上回りましたが減産分をカバーすることはできませんでした。

本年の弊社取扱は3、4月の冷え込み（霜害）により東部を中心とした生産は2、3割の減産となり、また西部早場所については価格の急落で摘み急いだ影響が出たことにより2割減産となった為、取扱数量は減少しました。また、価格については昨年の大増産によって1,000円台前半の茶を持ち越した茶商が多く、1,000円台を飛び越えて3ケタに入りましたが、安価な茶の取扱（生産量）が昨年より少なかった為平均単価は昨年並となりました。